

## 新設小学校の校区調べのための資料作り

プロジェクトメンバー

小泉晴加（教育学部 4 回生） 堀泰之、久禮麻佑子、坂田春華（教育学部 3 回生）

### 1. はじめに

我々がこの活動を始めたのは7月のことだった。先生のほうから自主演習プロジェクトというものがあることを教えていただき、我々はそのプロジェクトに参加してみたいと思った。しかし、肝心のテーマを何にしようか悩んでいると、大学の上、ふじと台に建設中の小学校があることに気づいた。それが藤戸台小学校である。

「あの小学校の社会科の教材を作ろう!!」

こうして我々の藤戸台小学校中学年社会科の教材作りが始まった。しかし、何から取りかかれば良いのかわからなかった。普段大学の授業で作成する授業案などとはまったく次元が違った。教材を一から作るということは想像を絶する難しさだった。

先生に助言をいただきながら、ゼミのメンバーで協力しながら一人では乗り越えられなかった問題にもみんなで力を合わせて乗り越えた。

### 2. 目的・目標

このプロジェクトの目的は校区調べの資料が少ないと思われる新設の小学校における校区調べの資料を我々の手で作成したいと考えたことと、このような教材作りの経験は我々大学生にとって大変貴重な経験になるであろうと考えたことである。

目標は、平成 23 年 4 月から実際に使える授業案や資料を作ることと、我々の教材研究、教材作りのスキル向上である。

### 3. 藤戸台小学校設立の経緯

我々が教材作りをしている新設小学校とは平成 23 年 4 月に開校する藤戸台小学校のことである。

ふじと台に住んでいる児童は現在、貴志小学校に通っているが、ふじと台の開発が進み、住民が大幅に増加するにしたがって児童数も増加し、貴志小学校は教室の許容範囲をこえてしまった。そのため、新たに藤戸台小学校が設立されることになった。

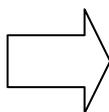


ふじと台の航空写真。  
矢印で示している辺りに藤戸台小学校  
が建設されている。

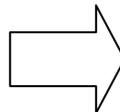
### 藤戸台小学校設立の様子



2010/8/18



2010/10/1



2010/11/30

## 4. 地図を使った授業の構想

### (1) 学習指導案

時	学習のねらい	主な発問 (○) と学習活動 (★)	教材(・)備考(※)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の場所を示すためには地図を使って示せばよいということに気づく。</li> <li>地図を正確に見ることができる。</li> <li>東西南北の感覚を身につける。</li> </ul>	<p>○(先に示したようなふじと台で目印になるようなものの写真を見せて)これはふじと台のどこにあるかな？</p> <p>★どのようにすれば場所を示すことができるか考える。</p> <p>○この地図で道路に色をつけてみよう。</p> <p>★屋上に上り、道路や線路の方角を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前もって撮影しておいたふじと台で目印となるものの写真</li> <li>1人一枚白地図</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふじと台を実際に探検し、小学校の周辺がどのような地域であるか知る。</li> </ul>	<p>★教師が撮影した目印となるものがふじと台のどこにあるかを確認する。</p> <p>その他にも児童が目印になると思ったものがあれば地図にメモしておく。</p> <p>人がいればその人に話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふじと台の地図</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>探検した結果をクラスで共有する。</li> </ul>	<p>★教師が撮影した目印はどこにあったか、自分が目印になると思ったもの、探検中に人から聞いた話などを発表する。</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活のためにはどのようなものが必要なか考えることができる。</li> </ul>	<p>○みんなはふじと台に何が欲しい？</p> <p>★(店や警察、信号など)なぜ欲しいのか理由も含めて考える。</p>	

### (2) 注意事項

ふじと台ならではの特徴を児童たちがを見つけるには、他の地域がどのような環境であるのかを児童たちが知っておく必要がある。平成23年に藤戸台小学校に編入する児童は、貴志小学校に通っているため、

貴志小学校周辺の様子（スーパーマーケットがある、コンビニがあるなど）を知っているが、貴志小学校に通ったことのない子ども達が入学し、3年生になったときに、他の地域と比較して自分たちの地域を捉えるということができない。

そこで、ふじと台を散策する前後で他の地域を散策するという活動も数年後には必要になるのではないかと考えた。

貴志小学校周辺を散策してもよいし、遠足で行った地域を散策してもよいと思う。何か児童が生活している地域と比較できるものがなければ、ただ地図を作っただけになる恐れがある。この学習では地図を作ることが目標ではなく、地域を知る1つの手段として地図を作成するのである。

## 5. 私たちの身近で働く人々～農業編～

### (1) 畑探し

農業ということもあり、実際に見学できる場所探しということで畑探しがスタートした。バスが停められる場所で、安全上問題がないということを考え、ある畑が挙げられた。そこは和歌山市のショッピングモールの裏にあり、貴志南小学校を道で挟んだ前にある。私は、その畑の所有者である貴志さんに連絡をとり、授業づくりに関して協力して頂けるように依頼した。

### (2) 学習指導案

1. 単元・教材名 『私たちの身近で働く人々～農業編～』
2. 本時の目標 『農業をしている人の苦労や大変さを想像することが出来、農業について考えることが出来る』
3. 本時の展開

学習活動	教師の支援 (○)・発問 (●)	準備物
・宿題に出した“農業にはどんな作業があるかな？身近な人に聞いてみよう！”の発表	●身近な人に聞いて、どのような農作業があったかな？	
・農業にはどのような苦労があるのかを考える	●農家の人々には、どのような苦労があるかな？	農業についてのニュース  ワークシート
・挙手して意見を発表する	○あまり意見が出てこなければ、火山灰の影響で農作物が育たないといった事例を提示し児童の想像を膨らませる	
・教師の話聞き、改めて発表 ・苦労を考えたらうで自分たちが農家の人々になったつもりで、気	●このような苦労があつて大変だけど、自分が農業をする人だったらどのような気持ちになるかな？	

持ちを考える  ・ 挙手して意見を発表する (ロールプレイングでも可)	○意見が出てこなければ先ほど考えた 意見を基にして考えることを言う	
・ 今回の授業で出した意見をまとめ る		

## 6. 私たちの身近で働く人々～販売編～

### (1) 販売に関する学習についての考察

小学校第3・4学年の教科書を開くと、そのほとんどで「スーパーマーケット」を題材にした単元が組まれている。

一方、学習指導要領を見ると、中学年の社会科の目標に「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」とあり、その内容は以下の通りである。

地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり。

見てわかるように学習指導要領では特に「スーパーマーケット」という言葉は挙げられていない。それでは、なぜ多くの教科書で取り上げられているのだろうか。まずはスーパーマーケットを学習するにあたって考えられる‘良さ’を考えてみる。

- ①全国で一般的に見られるものであるため、多くの地域で教材化されやすいこと
- ②児童の生活にも密着した販売を行っているため、興味を持ちやすい教材であること
- ③地域の中の特色として見られる商店街や小売店などとの比較の基準となりうること

この三点を挙げたのはあくまで個人的な意見だが、やはり教材としての扱いやすさや子どもたちに親しまれているものであることは言えるだろう。

### (2) 見学にあたって

私たちは、スーパーマーケットについての授業案をつくるため、実際に見学した。

私たち自身知らなかったスーパーマーケットの現状やそれに対する工夫(企画)、そして働く人たちの専門性やこだわりが見えた。ここでは、スーパーウジタの見学に際して私たちに関心を持ち、授業を組み立てるヒントとした点を記録しておこうと思う。

<店の外のようなから>

・大きな敷地の中には、スーパーマーケット以外にも美容室やゲームセンターや回転ずしのチェーン店、クリーニング屋や宝くじ売り場があり、それらの店を利用する客は一つの大きな駐車場を利用しているようすが見られる。

・店の横に回ると、駐車場とは異なるスペースが用意されていた。そこには空のケースや段ボール

箱が積まれており、毎日多くの品物が届けられることが分かる。

<店内のようすから>

- ・入口のすぐ近くに音楽や季節を感じさせるもの（この時はクリスマスツリーやベルだった）があり、お客さんに楽しんで買い物ができるよう店内の装飾には配慮している。
- ・店内で働いている人は服装によって行っている仕事の内容が異なる。
- ・野菜・肉・魚の照明の使い方はより新鮮においしそうに見えるように工夫されている。

<店で働く人の仕事場や働いているようすから>

- ・店内から見えない部分で商品を加工し、販売のための準備をしていることが分かる。
- ・肉売り場や魚売り場には商品を新鮮に保つための大きな冷蔵庫や、水槽があり、そこで働いている人は白い服装で衛生面を重視した服装をしている。
- ・魚売り場では、買いたい魚を好きなように切り分けるサービスが行われている。
- ・売られている野菜は、新鮮さを保つため、冷気が出る機械の上に置かれている

<店長の話を聞いて>

- ・本部はチラシや広告には重要な役割があると考えており、メインとなる商品のレイアウトや値段をどのように載せるか、カラーを使用するかなどをふまえて印刷、配送している。
- ・ウジタのこだわりは和牛であり、値段は高く、客層は限られてくる危険もあるが、「おいしさ」をお客様に届けたいという思いを持っている。

## 7. 私たちの身近で働く人々～工業編～

### (1) 授業設定について

工業では、社会科3年生“人びとのくらしとわたしたちのくらし”の中の工場の仕事について授業案を考える。この単元は、学習指導要領の社会科第3学年及び第4学年の内容（2）「地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする」を受けて構成したものである。

そこで今回は和歌山市手平にある三菱電機株式会社冷熱システム製作所（和歌山事業所）をとりあげることとした。ここでは主に業務用の空調機や冷凍機などを制作しているところである。

### (2) 工場見学について

工場の場所設定について始めは行きやすいところということを考え、ふじと台の近くにあるノーリツ鋼機株式会社を検討していた。しかしながら工場内を見学するにあたって機械がたくさんあり、小学生には危険ではないかということで変更することにした。

そこで考えたのが“人が働いているところを見せる”ということである。工場も機械化が進んでおり、コンピューターで制御している工場が多いという中で、実際に人が現場で働いている姿が見られればと考え、そういった工場を探した。

三菱電機株式会社冷熱システム製作所和歌山事業所は、すべて機械化しているのではなく、実際に働いている人の様子を見ることができるとのこと。